

北海道新聞

平岸の歴史を訪ねて

自然史編

第1回、支笏火砕流と火砕流が台地を作った①

平岸の地形をどこか見晴らしの良いところに登って眺めてみましょう。まず、HTBを少し下った場所にある高台公園のあたりを境に、

西側(豊平と中の島、澄川方面)には開けた平野が広がっています。対照的に、東側は台地状に盛り上がり、この高まりは西岡から羊ヶ丘にかけて広く続いています(図1)。

この台地は今から

約4万年前に発生した大規模な火砕流によって作られたものです。火砕流ときいて1991年に長崎県の雲仙普賢岳で起こったものを思い起こす方もいるでしょう(写真1)。

更新世		縄文～擦文	明治					大正	昭和			平成	時代
4万年前	1万年前	7千～千年前	4	6	8	23	44	7	16	43	46	2	年代
支笏火砕流の発生	旧豊平川扇状地の形成	ぼうず山・東山遺跡 天神山チャシ	岩手県からの集団入植	平岸用水の開削	リング栽培の開始	平岸小学校開校	あんぱん道路の完成	定山溪鉄道の開通	平岸霊園の開園	HTB開局	地下鉄南北線開業	羊ヶ丘通全面開通	できごと



写真1. 雲仙普賢岳の火砕流

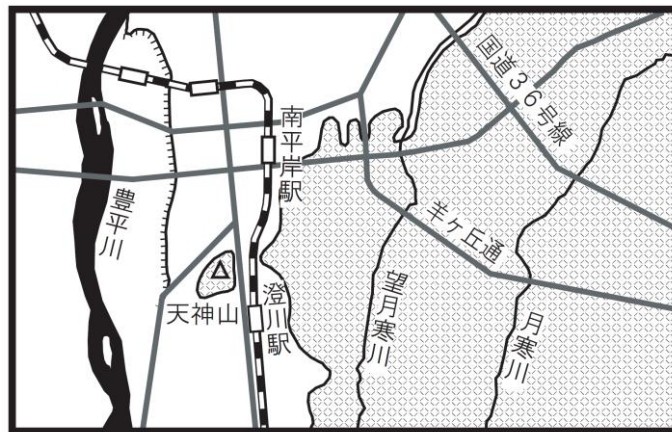


図1. 支笏火砕流堆積物の分布図

支笏火砕流堆積物

火砕流とは簡単に言えば火口から空中への噴火が、そのままに角度をかえて横向きに爆発したものです。数100度に熱せられた高さ1000mにも達する巨大な熱雲が新幹線並みのスピードで地表を流れ下っていくのです。これに遭遇したら助かる見込みはありません。あらゆる動物を飲み込み、木々を焼きつくし、火砕流は北は札幌から、南は白老、東は早来にまで流れました。

この巨大な火砕流はどこから来たのでしょうか？半径100kmにも及ぶ巨大な火砕流の発生源、それは支笏湖でした。かつてそこには富士山型の美しい成層火山がありました。それが大噴火して、火砕流となり、火山は崩壊し、巨大なカルデラ湖(支笏湖)となりました。噴出した火砕流の量はおよそ1千億^m、なんと札幌ドーム6万3000杯にもおよびます。雲仙普賢岳の噴出量が約2億^mですから、その500倍というまさしく桁違いな量です。今まったく同じ火砕流が発生したらと考えると、ゾッとします。幸い、支笏カルデラはそのあと活動を停止しましたが、すぐ隣の樽前山は今も噴煙を上げており、江戸時代には小規模な火砕流さえ起こっています。「天災は忘れたころにやってくる」という言葉にあるように歴史をひもといてみれば、常に防災に対する心構えを忘れてはいけなことがわかるでしょう。

参考資料 小野有五・五十嵐八枝子(1991)『北海道の自然史―氷期の森林を旅する―』北海道大学図書刊行会、299pp

取材協力のお願：この連載では今後現代にいたるまでの平岸の歴史を紹介する予定です。昔の思い出や資料・写真など平岸の歴史に関わることをご存知の方はどんなことでも結構です。お気軽にお知らせいただけると幸いです。

【編集後記】

おかげさまで永田販売所は昨年開業30周年を迎えることができました。これもひとえに地域のお客様の長年にわたるご愛顧によるものと改めて感謝申し上げます。この機会に、私達は北海道新聞の販売所としてお客様に何をお返しすることができるだろうと考えました。これまで、新聞販売所は新規の読者獲得に目を向けがちで、ともすれば長年ご購読されているお客様へのサービスを忘れがちだったように思います。そこで長年平岸地域に暮らし、地域の皆様から支えていただいたわづかばかりのお返しとして、平岸の歴史を掘り起こし、郷土の変遷と発展をご紹介しますことで、先人の偉業を偲び、平岸により一層愛着を感じていただければとの思いで、この連載を始めることにいたしました。最後までお付き合いいただければ幸いです。

執筆者：道新永田販売所営業主任 伴野卓磨

1977年生まれ。金沢大学理学部地球学科博士課程(古生物学専攻)を修了後、六花亭に入社。2011年より現職。

◇発行元◇

(有)北海道新聞永田販売所

〒062-0936

札幌市豊平区平岸6条13丁目7-18

TEL: 0120-128-348

FAX: 0120-128-358

◆この連載は毎月1日・15日の道新朝刊に折り込みいたします